

富山大学 教養教育院

令和7年度 第3回

# FD研修会報告

Faculty Development Report

# FD

# REPORT

## 目 次

1. 開催趣旨と総括	1
2. 開催要項	2
3. FDの様子	3
4. 参加状況	26
5. 参加者アンケート集計結果	27

## 1. 開催趣旨と総括

令和8年度から実施となる新教養教育における全学必修新規科目「導入学修A」（全学共通の初年次教育）について、円滑な導入と授業の内容および運営の充実を図ることを目的に、第3回教養教育院FDを実施しました。「導入学修A」では、学生が主体的に考え、他者と協働しながら学ぶことを基本とし、グループワークをカリキュラムの中心に位置づけています。これを実現するためには、担当教員が知識を伝える「教える人」とどまらず、学生の学修活動を支え、学び合いが生まれる場を設計し、運営する「支える人」として機能することが不可欠となります。本FDでは、そのための授業運営の基盤を、「導入学修A」の実際の授業内容に即して体験・実践し、担当教員同士が相互に学び合う場となるよう実施しました。

本FDは「グループワーク・ファシリテーション実践型ワークショップ～“教える”から“共に学ぶ”へ～」をテーマとして、2日間（各日3時間、計6時間）にわたり開催しました。講師として、日本ファシリテーション協会において第一線で活躍されている浦山 絵里 氏および尾上 昌毅 氏をお招きし、導入学修Aの授業実施を見据えた場づくりとファシリテーションの要点を、体験型のワークを通して学ぶ機会となりました。理論と実践を往還しながら、授業の進行の具体的な方法を共有できた点で非常に意義深く、今後の「導入学修A」の質の向上に資する内容でもありました。具体的には、「導入学修A」で予定している第1回および第2回の授業内容を実際に取り上げ、はじめに必要となる「出会いをつくる」設計（オリエンテーション、お互いの関係性の形成、心理的安全性の確保）と、それを土台とした対話の促進、意見の引き出し方、振り返りなどを、体験型のワークショップ形式で段階的に学ぶ機会となりました。

本FDで得られた知見は、「導入学修A」に限らず、学生主体の学びを実現するあらゆる授業に応用可能です。とりわけ、場づくりやファシリテーションは特定の分野に限定されない汎用的な授業運営の技術であり、教員がこれらを習得し、共有することは、学生の学びの質を高め、学修成果をさらに引き出すうえで大きな意義があります。今後は、教員間で工夫や課題を共有し、学生が「共に学ぶ」学修環境を組織的に育てていくことが、新教養教育の円滑な実施と学修の質向上につながるものと期待されます。

令和7年度教養教育院教育改善推進委員会委員長

福田 翔

## 2. 令和7年度第3回教養教育院FD 開催要項

テーマ 「グループワーク・ファシリテーション実践型ワークショップ  
～“教える”から“共に学ぶ”へ～」

### 1. 開催趣旨

令和8年度から始まる新教養教育では、「導入学修A」をはじめ、様々な授業で、学生一人ひとりが主体的に考え、他者と協働しながら学ぶ力を育む授業づくりが求められています。そのためには、教員は「教える人」から「支える人」になり、学生中心のまなびの場を創っていかねばなりません。

今回は、教えるから共に学ぶ授業にするための場づくりやファシリテーション技術を学びます。2日間を通して、実際の授業プログラムを体験し、そこで使われているコミュニケーションスキルを解説します。

### 2. 開催日時

第1部 令和7年12月4日（木）14:00-17:00

第2部 令和7年12月5日（金）9:00-12:00

### 3. 開催形式

対面（参加型、ワークショップ形式）

### 4. 開催会場

共通教育棟D棟D22番教室

### 5. 対 象

本学教職員

- ・新教養教育科目「導入学修A」に関わる皆様
- ・学生主体の授業に関心のある皆様

### 6. 次 第

令和7年12月4日（木）14:00-17:00

第1部「ファシリテーションの基本 ～オリエンテーションと出会いをつくる～」

#### (1) 開会挨拶

會澤 宣一（教養教育院長）

#### (2) 趣旨説明/司会進行

福田 翔（教養教育院 教育改善推進委員長）

#### (3) ワークショップ①

講師：<sup>うらやま えり</sup>浦山 絵里 氏 / <sup>おのうえ まさき</sup>尾上 昌毅 氏（日本ファシリテーション協会）

令和7年12月5日（金）9:00-12:00

第2部「ファシリテーションの実践 ～語りあい、学びあう場をつくる～」

#### (4) ワークショップ②

講師：<sup>うらやま えり</sup>浦山 絵里 氏 / <sup>おのうえ まさき</sup>尾上 昌毅 氏（日本ファシリテーション協会）

#### (5) 閉会挨拶

杉森 保（教養教育院副院長）

### 3. 令和7年度第3回教養教育院FDの様子

テーマ グループワーク・ファシリテーション実践型ワークショップ  
～“教える”から“共に学ぶ”へ～

本FDは、令和8年度から実施する新規科目「導入学修A」を見据え、授業で求められる「学生主体の学び」を支えるために必要な教員のファシリテーション技術とチーム・ティーチングの力を高めることを目的に実施しました。講師として、日本ファシリテーション協会（ファシリテーションサポート委員会）の浦山 絵里 氏と尾上 昌毅 氏をお迎えし、講義と体験型ワークショップを通して理解を深めました。特に、「導入学修A」の授業冒頭の場づくり（授業の目標や目指す成果の共有、関係づくり）から、対話を深め学び合いへつなげる実践（聴く、問う、可視化する、振り返る）までを、2日間の構成で学びました。参加者が学生の立場でプログラムを体験するスタイルを取り、「導入学修A」の授業内容の再現・応用を行い、教員同士で検討できるように設計しました。

#### 本FDの「アウトカム（Outcome：成果）」

参加者は、FDでのグループワークを通して「導入学修A」で求められている教員のアウトカムがイメージできる。また、学生が協同して新たな気づきを生み出すプロセスを支援するために、ファシリテーションスキルを使ってみようと思えている。

#### 第1部（1日目） ファシリテーションの基本 ～オリエンテーションと出会いをつくる～

##### ① 概要

1日目は、参加者が学生役としてプログラムを実際に体験しながら、「導入学修A」の初回で行う具体的な進め方を確認しました。短時間で学びの土台を整えるための「はじめの言葉のかけ方」、「学生同士の対話を促す方法」、「意見の共有のさせ方」、「意見の可視化の方法」などを、講義とワークを往復しながら整理しました。



##### ② この時間の「アウトカム（Outcome；成果）」

参加者は、FDのグループワークを通して、教員チームが導入学修で求められているアウトカムがイメージできる。また、学生が協働して新しい気づきを生み出すプロセスを理解し、その支援をするためにファシリテーションスキルを使ってみようと思える。

##### ③ 主な内容（流れ）

本FDでは、授業の冒頭で「学びの場」を整えるところから、対話を促す問いの設計、意見を共有するための可視化、そして教員自身の振るまい（環境因子）を見直す視点までを含め、ファシリテーションの基本的な流れに沿って、参加者自身が体験することを通して学びました。

#### ・事前準備、場づくり

FDの冒頭では、「どんな人がいるのか」を互いに知り合うことを意識し、チェックインやアイスブレイクを行いました。緊張をほぐし、安心して話せる関係をつくり、発言（声出し）の準備を整えることで、参加しやすい土台をつくることを学びました。また、フォーメーション（座り方・視線の向き・距離感など）を工夫して対話が生まれやすい配置にし、場の雰囲気づくりやメンバー設定（グループ分け・役割の置き方）を通して、学び合いが起こる条件を整えました。

#### ・話しやすさをつくる

いきなり意見交換に入るのではなく、自己紹介することから始め、発言のハードルを下げます。小さな自己開示（例：「最近うれしかったこと」、「今の気分」など）を取り入れて、互いの人となりが見える状態を作ります。さらに、グループサイズを状況に応じて調整し（大きすぎると話せない／小さすぎると視点が偏る）、全員が言葉を出しやすい構成にします。

#### ・問いは組み立てる

グループワークでの対話を深めるには、問いの立て方が重要になります。まずは「否定されない」ことを確認して、安心して話せる状態を作ります。そのうえで、視点を広げる問い、理由や根拠を言語化する問い、具体化する問いへと段階的に進み、思考を深めていきます。

#### ・可視化

意見の可視化は、議事録や結論の整理のためではなく、話し合いを進めるための「道具」として用います。今回は、模造紙に水性マーカーで出てきた意見やキーワードをそのまま書き留めました。全員が同じ情報を見ながら考えられる状態をつくることで、論点のずれや見落としを減らし、対話を次の一歩へつなげやすくなります。

#### ・環境因子としての自分を自覚する

教員自身が「場の環境因子」であることを自覚します。教員の発言量、発言内容、表情、相づち、立ち位置などが学生の安心感や発言に影響する点を意識します。とくに、教員の立場、評価者としての権限などを自覚したうえで、振る舞いを整えることが重要になります。学生が対話が続く関わり方（聴く、待つ、促す）へ切り替えていく必要もあります。



## 第2部（2日目） ファシリテーションの実践 ～語りあい、学びあう場をつくる～

### ① 概要

2日目は、1日目に学んだファシリテーションの基本を土台に、学生同士の学び合いへとつなげる授業運営を、模擬授業を通して実践的に学びました。題材には「導入学修A」第2回の内容（「ウェルビーイングについて」）で、参加者は授業実施者である教員役と学生役に分かれて授業を体験しながら、グループワークにおいて対話が生まれる仕掛けや、停滞・偏りが起きたときの教員側の支援の仕方などを具体的に確認しながら実施しました。



### ② この時間の「アウトカム（Outcome; 成果）」

学生が行うグループを中心とした授業の進め方について、どこに注力したらよいか理解し、自分もやれそうという気持ちになっている。



### ③ 主な内容（流れ）

#### ・オリエンテーション

2日目のねらいと進め方を共有し、参加者が安心して参加できるように全体の見通しを整えました。あわせて、当日の学びを授業実践につなげるためのポイント（役割意識・振るまい・振り返りの観点など）を確認しました。

#### ・1日目の復習

1日目に扱った「場づくり」、「話しやすさをつくる工夫」、「問いの立て方」、「可視化の考え方」などの要点を振り返り、2日目の活動につながる共通理解を形成しました。

#### ・模擬授業体験

「導入学修A」の2回目に相当する授業（テーマ：ウェルビーイング）を、参加者が教員役と学生役に分かれて、実際に体験しました。授業の流れ、問いかけ、グループワークの設計、教員の関わり方などを具体的に捉え、授業運営のイメージを深めました。

#### ・模擬授業を体験しての振り返り

模擬授業での気づきや学びを言語化し、「学生としてどう感じたか」、「教員としてどこに工夫が必要か」といった観点から整理しました。振り返りを通して、各自の担当場面で再現・応用できる具体的な手立てを検討しました。

・授業で役立つ6つの Tips

「導入学修 A」を実施するうえで、ポイントとなる6項目をまとめ、場面ごとに使える工夫として共有しました。

- 1) グループワークとは？（ファシリテーションとインストラクション）
- 2) 動作指示を出すときのコツ
- 3) 「問い」の工夫：見える化
- 4) 60名にシンクロしてもらうには？
- 5) 教員はワーク最中にどう動く？
- 6) グループサイズを変えるやりかた

・Q&A

参加者からの質問に講師が回答し、現場で想定される課題や迷い（運営上の注意点、学生の反応への対応、教員間連携の工夫など）を具体的に確認しました。全体で疑問点を解消し、実践に向けた見通しを持つ機会となりました。



#### 4. 令和7年度第3回教養教育院FD参加状況

「グループワーク・ファシリテーション実践型ワークショップ ～“教える”から“共に学ぶ”へ～」

##### 【参加者内訳】

教員	
役員	1
教養教育学系	10
理学系	2
都市デザイン学系	1
工学系	1
医学系	4
薬学・和漢系	2
教育研究推進系	1
小計	22

職員	0
----	---

非常勤講師	0
-------	---

合計	22
----	----

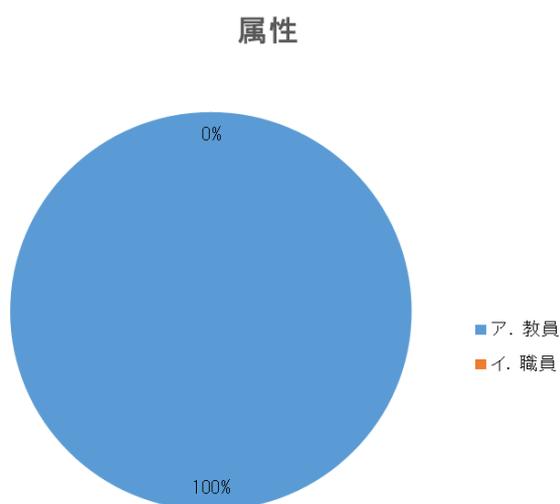
## 5. 令和7年度第3回教養教育院FD参加者アンケート集計結果

FD参加者数：22名

(内訳：教員22名，職員0名)

アンケート回答者数：18名

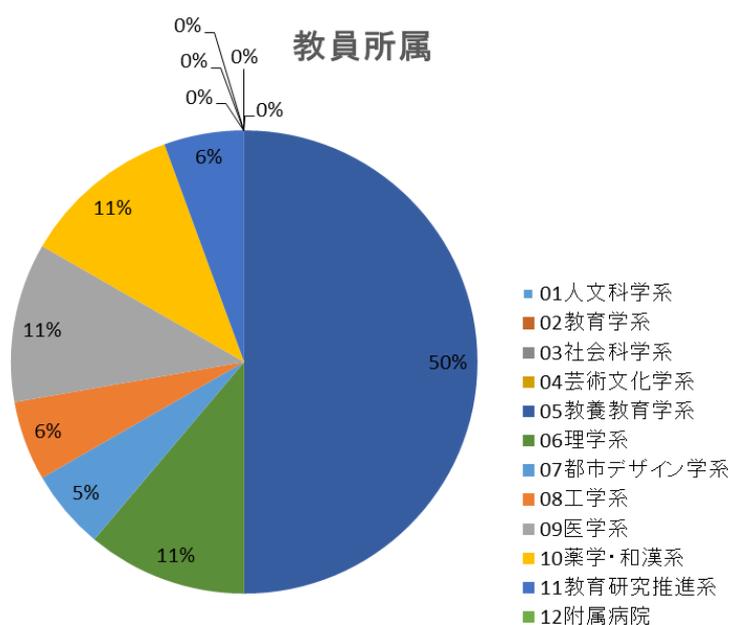
### 1. 属性を選んでください。



属性

ア. 教員	18
イ. 職員	0
計	18

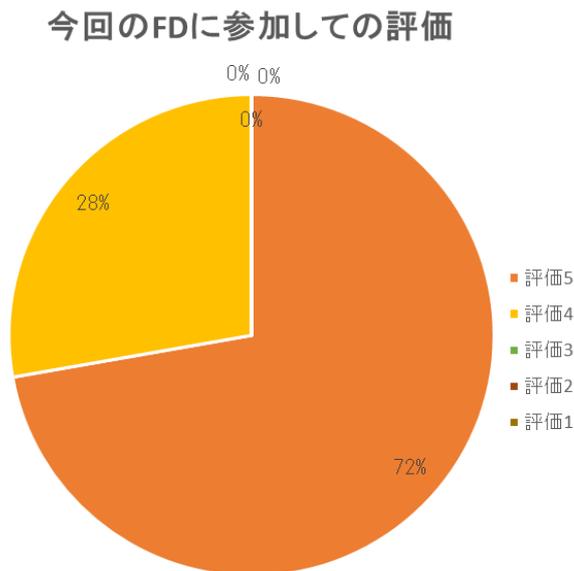
### 2. 所属を選んでください。(教員のみ)



教員所属

01 人文科学系	0
02 教育学系	0
03 社会科学系	0
04 芸術文化学系	0
05 教養教育学系	9
06 理学系	2
07 都市デザイン学系	1
08 工学系	1
09 医学系	2
10 薬学・和漢系	2
11 教育研究推進系	1
12 附属病院	0
計	18

3. 今回の教養教育院FDに参加しての評価を5段階評価で入力ください。



今回のFDに参加しての評価

評価5	13
評価4	5
評価3	0
評価2	0
評価1	0
計	18

4. 今回の教養教育院FDについての感想やご意見があれば、ご記入ください。

- ・実際の授業形式(第2回の授業相当)に沿った模擬授業の体験は、次年度から始まる「導入学修A」の一連の流れを理解することや、実際に自分が担う役割について考えることにおいて非常に有意義でした。現段階で「導入学修A」に関する詳細な情報が担当予定の教員に行き渡っていないことを実感したので、これからは折に触れ情報が共有されることを望みます。今回のFD参加は、「導入学修A」の導入がスムーズにいくための準備を自分なりに進めていきたいと心を新たにできる良い機会となりました。本日はありがとうございました。
- ・学生の立場での体験、ファシリテーターの役割、運営上気をつける場所、運営する教員の連携の重要性など、さまざまなことの要点や問題点に気付くことができ、大変有意義でした。
- ・導入学修についてどのような講義を実施するのか具体的なイメージを持つことができました。
- ・模擬授業を体験できて大変良かった。ファシリテーター協会の人たちと多く話すことができ、導入学修についての不安が軽減した。
- ・導入学修Aを担当することになっているものの、授業の具体を全くわかっていなかったため、今回模擬授業もあり、どのような授業をしようとしているのかを理解することが出来ました。どうもありがとうございました。
- ・他の先生方と授業に関する情報や意見を共有できる場は貴重だと感じました。
- ・授業を行う上で参考になる対処法やスキルを多く知ることができ、今後の授業でもすぐに使ってみようと思った。多くの教員に体験していただくとよい内容であった。
- ・ファシリテーターは慣れていないととても難しい役割なので、時間進行に余裕のある講義構成にさせていただいた方がよいと思います。
- ・授業での教員のファシリテーションやグループワークを実施する上での方法などを分かりやすく、また自分自身で体験しながら学ぶことができ、非常に勉強になりました。また、教員3人で授業を展開し

ていく方法についても、とても参考になりました。さらに、今回の学びを今後の授業づくりにどのように活かしていくかを改めて考える良い機会となりました。

- ・始動学修についての考え方について情報を追い切れていなかったのも、いい意味での危機感を持つことができました。
- ・大変勉強になりました。と同時に他学部の教員が導入学修の内容についてわかっておらず不安に思っていることも明らかとなりました。FDに参加いただいた方々は良いのですがそれ以外の教員はどうか懸念しております。
- ・大変勉強になりました。

## 5. 今後、教養教育院FDで取り上げて欲しいとお考えのテーマがあれば、ご記入ください。

- ・来年度の教養改革に向けて、最も情報共有が必要と思われる「導入学修A」について、今回のようなFDを繰り返し実施する必要があります。
- ・レイドクロスのロールプレイ <https://jp.icrc.org/information/ihl-education-conference/>
- ・今回と同様のFD、さらには実際に「導入学修A」をした段階での同様のFDを実施していただきたいです。
- ・大人数授業でのグループワークの方法

## 6. アンケート結果のまとめ

今回の自由記述からは、本FDが、次年度から実施される「導入学修A」について、担当予定教員の理解と準備を具体的に前進させる機会となったことが明確に読み取れました。特に、授業形式に沿った模擬授業を「学生の立場」で体験したことにより、「一連の流れを理解できた」、「授業の具体的なイメージを持てた」、「自分が担う役割を考えるきっかけになった」といった感想が見られました。授業像が十分に共有されていなかった教員にとっても、授業運営の実感を伴う理解へとつながった点が大きな成果だと考えられます。

また、体験を通して「ファシリテーターの役割、運営上気をつける場所、運営する教員間の連携の重要性など、さまざまなことの要点や問題点に気付くことができ、大変有意義でした」という意見も見られました。これは、「導入学修A」が個々の教員の裁量に委ねる授業ではなく、複数教員が協働しながら場を支える授業であるという前提が体験を通して共有されたことを示しています。さらに、「他の先生方と情報や意見を共有できる場は貴重」という声もあり、授業内容の理解に加え、担当者同士がつながり、不安や疑問を共有できる場としても機能したことがうかがえます。

加えて、今回のFDは、担当教員の不安を軽減し、実践への意欲を高める効果も確認できました。

「『入学修A』を担当することになっているものの授業の具体を全くわかっていなかったが、模擬授業で理解できた」、「不安が軽減した」、「今後の授業でもすぐに使ってみようと思った」、「準備を自分なりに進めていきたいと心を新たにしたい」といった記述は、授業内容やその方法が見えたことで心理的ハードルが下がった可能性があります。

一方で、改善点・課題も具体的に指摘されています。まず、「現段階で『導入学修A』に関する詳細な情報が担当予定の教員に行き渡っていないことを実感した」というコメントがあります。また、「FDに参加いただいた方々は良いのですがそれ以外の教員はどうか懸念している」といった声は、今回

参加できた教員には理解が進んだ一方、参加できなかった教員との間で情報の格差が生じるリスクがあることを示唆しています。したがって、今後は「折に触れて情報共有されることを望みます」というコメントにあるように、継続的・反復的に情報共有をする仕組みを強化する必要があると考えられます。次に、ファシリテーターの役割の難しさに関する指摘も見られました。「ファシリテーターは慣れていないと難しいため、時間進行に余裕のある講義構成にさせていただいた方が良いと思います」とあるように、「導入学修A」の質を安定させる上で、個々の教員の力量に依存しすぎず、たとえ慣れていなくても無理なく実施できることを望まれていることが分かります。特に、初年度の運用のばらつきを抑え、参加者の不安をさらに軽減できるように工夫をしたいと思います。

今回のFDは、模擬授業を中心とした体験を通して「導入学修A」の授業内容と教員の役割の理解を促進し、準備への意欲を高めるという点で高い効果があったと考えられ、またさらなるスキルアップも見据えて、継続的に研修を受けられる体制を整えたいと考えます。同時に、参加できなかった教員を含む担当予定教員への情報共有をさらに強化し、ファシリテーターの役割やその運用の難しさといった課題も解決していきたいと思います。今後は、体験機会をさらに増やし、情報共有を継続し、運営設計の工夫を重ねていくことで、「導入学修A」の円滑な立ち上げと授業の質の安定につなげていくことが重要であると考えます。